

はしご車で倒壊ビルから救出訓練

京都府総合防災訓練

80機関約1,000人参加し 大規模に開催



市と府は9月2日、上杉町の総合運動公園で「京都府総合防災訓練」を行いました。本市で府と合同の訓練を行うのは、平成7年以来23年ぶりです。訓練は、**局部的豪雨と直下型大地震を想定して実施**。国土交通省や気象庁、陸海空自衛隊、市消防本部など計80機関、約1,000人が参加する大規模訓練となりました。

▼原子力災害を想定し避難バスの除染や避難者の検査・除染を実施



▲陸上自衛隊や府警察機動隊、消防救助隊による倒壊ビルからの合同救出訓練

避難所訓練には住民も参加
訓練は午前10時に開始し、情報伝達や避難所運営、救出・救助、原子力災害対応訓練などを実施。市主催の訓練では初めて、ペット同行者・車中泊避難対応訓練、外国人のための防災訓練や研修会を行いました。このうち外国人のための防災訓練では、市内在住の約50人の外国人が参加。災



災害派遣医療チームや日本赤十字社などによる合同救護訓練

害時の対応や日ごろの備えなどを学びました。さらに、福知山市・舞鶴市などから救援物資の輸送訓練、市消防団11分団121人による一斉放水訓練なども行われました。市は今回の訓練を踏まえ、今後も市民や関係機関と連携して防災対策を進めます。



山家地区自治会連合会や東綾小・中学校などが避難者として訓練に参加

同日午後1時から、市研修センターで西脇隆俊京都府知事が府民と直接意見交換し、府政に反映することを目的とした「西脇知事と行き活きトーク」が開催されました。知事と対談したのは女性消防団員を含む団員計5人。消防団の活動内容や魅力・苦勞などを語りました。西脇知事は「消防団は地域に必要不可欠なもの。有意義な意見交換ができた」と述べました。

府知事と消防団が意見交換



市消防団の部長や団員などが参加